



みんなのマイカープラン

～みんなで考える、支える、使える、公共交通へ～

次代のまちづくりプロジェクト2015

木村 西岡

1. このプロジェクトのねらい

公共交通の活性化による住民満足度の向上

1 既存施策の活性化

ノーマイカーデー
推進

乗車券配布



観光利用

講座・勉強会

利用者数を**3年**で
1.5倍程度に引き上げ！

2 新規施策の検討

コミュニティ
タクシー

グループ
タクシー

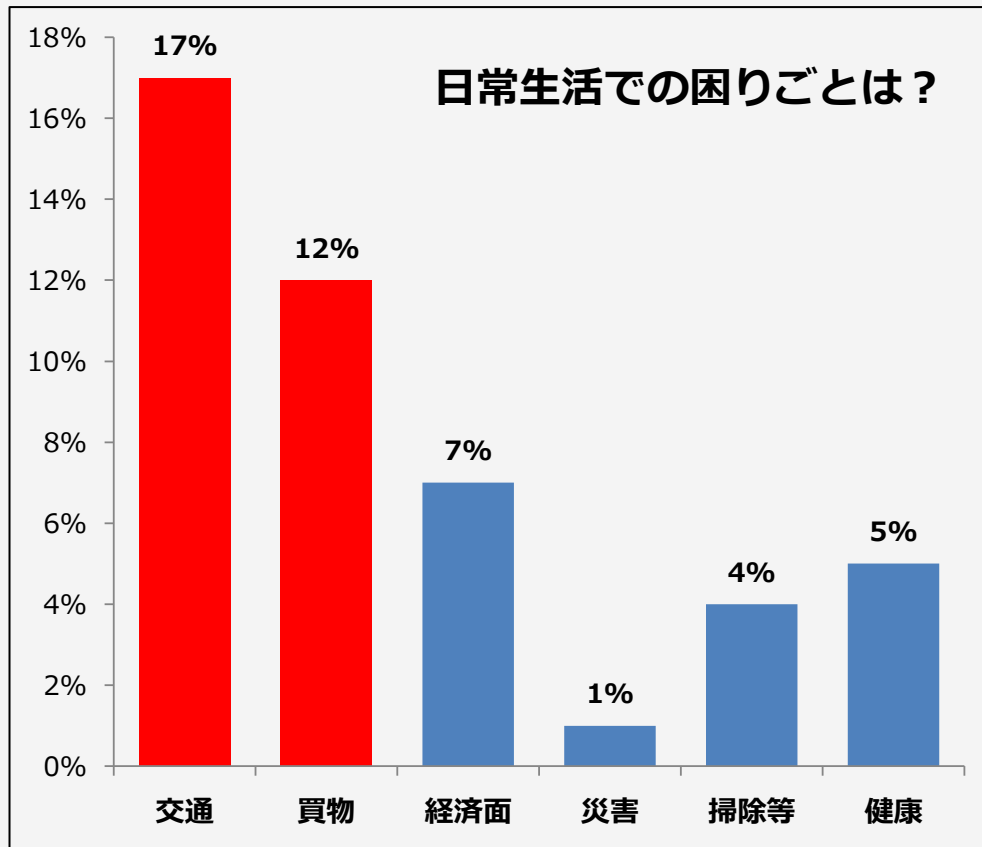


過疎地
有償運送

公共空白地域を**3年**で**ゼロ**に！

1. 現状

公共交通に対するニーズと期待の大きさ



2014 かつらぎ町「生活機能チェック」より
※介護サービスを受けていない80歳以上の方264名を対象にアンケート

孫にハガキを送りたいけど、バスやタクシーを使わないと…

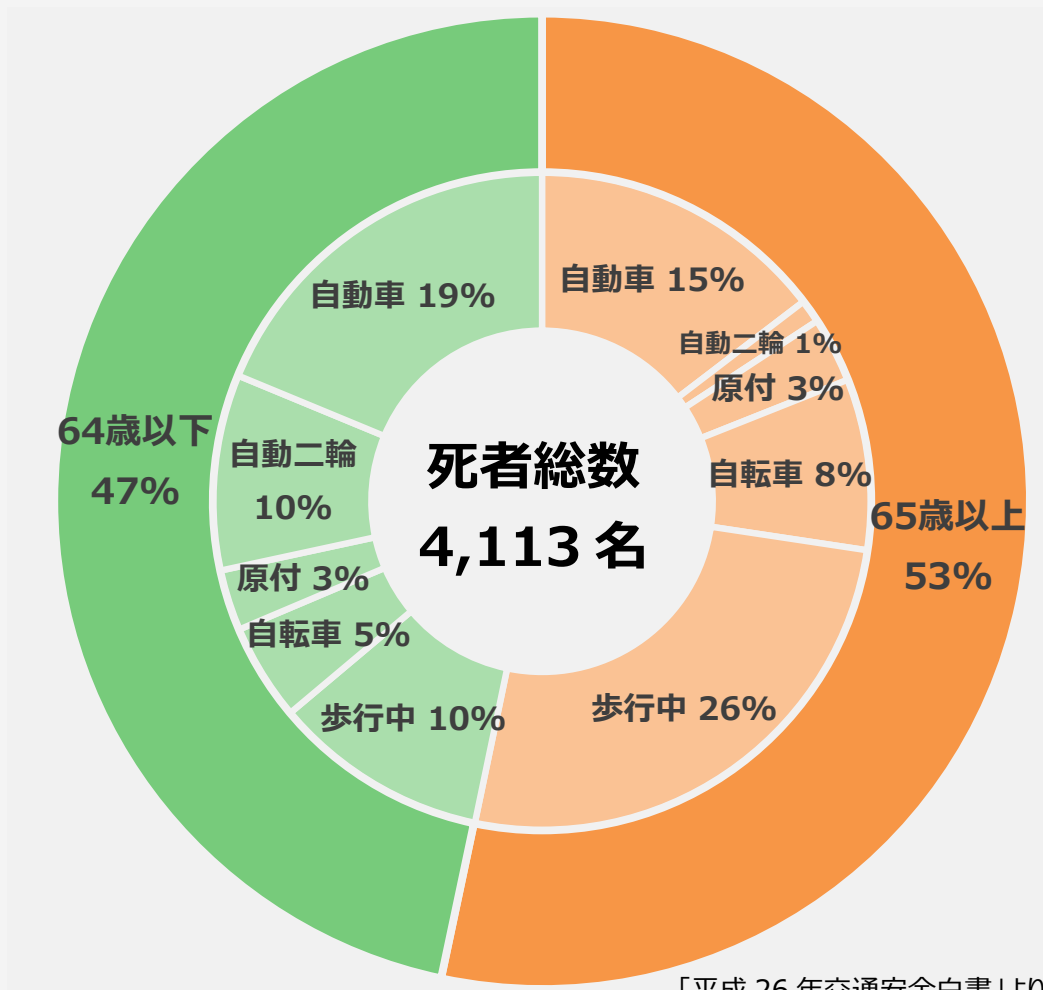


コミュニティバスがなくなったら、買い物にも行けない！



1. 現状

平成 26 年中の状態別・年齢層別交通事故死者数



65歳以上では、交通事故にあって危険性が高まる

危ないから運転はやめてほしいけど、送り迎えは大変だし…



2. 公共交通の果たす役割

なぜ、公共交通は必要なのか？

高齢者、妊婦、学生など、クルマを運転できない人たちの移動手段

家族の送迎に頼らざるを得ない

外出をひかえる

深刻な場合、**買物や通院など最低限の生活も行えない**

では、クルマを運転できる人には関係ないのか？

クルマの故障やケガ、病気など・・・突然クルマを使えなくなること

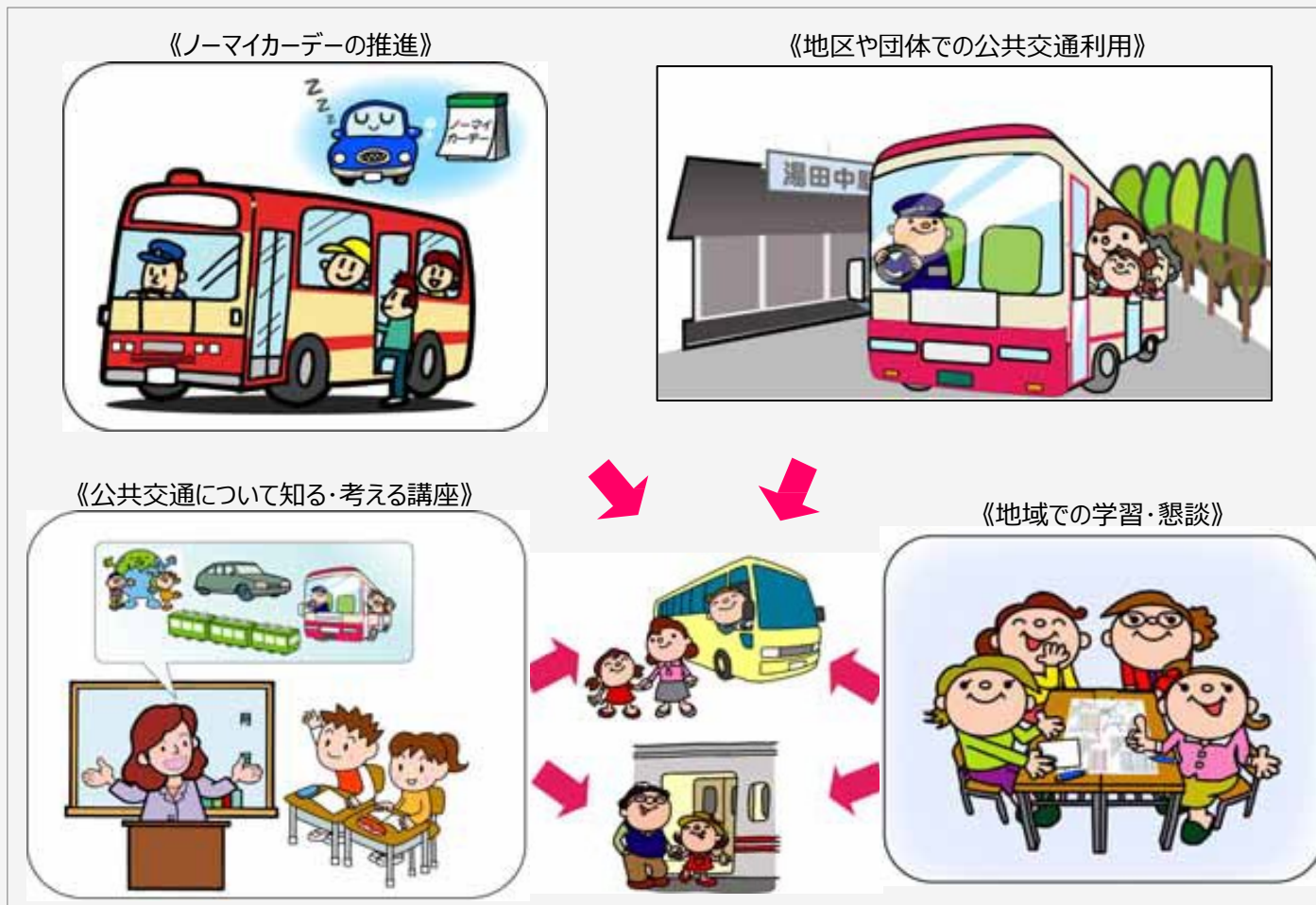
いまは元気でも、将来的にはクルマを運転できなくなるかも

(公共交通が一度なくなってしまうと、簡単には復活できない)

2. 公共交通の果たす役割

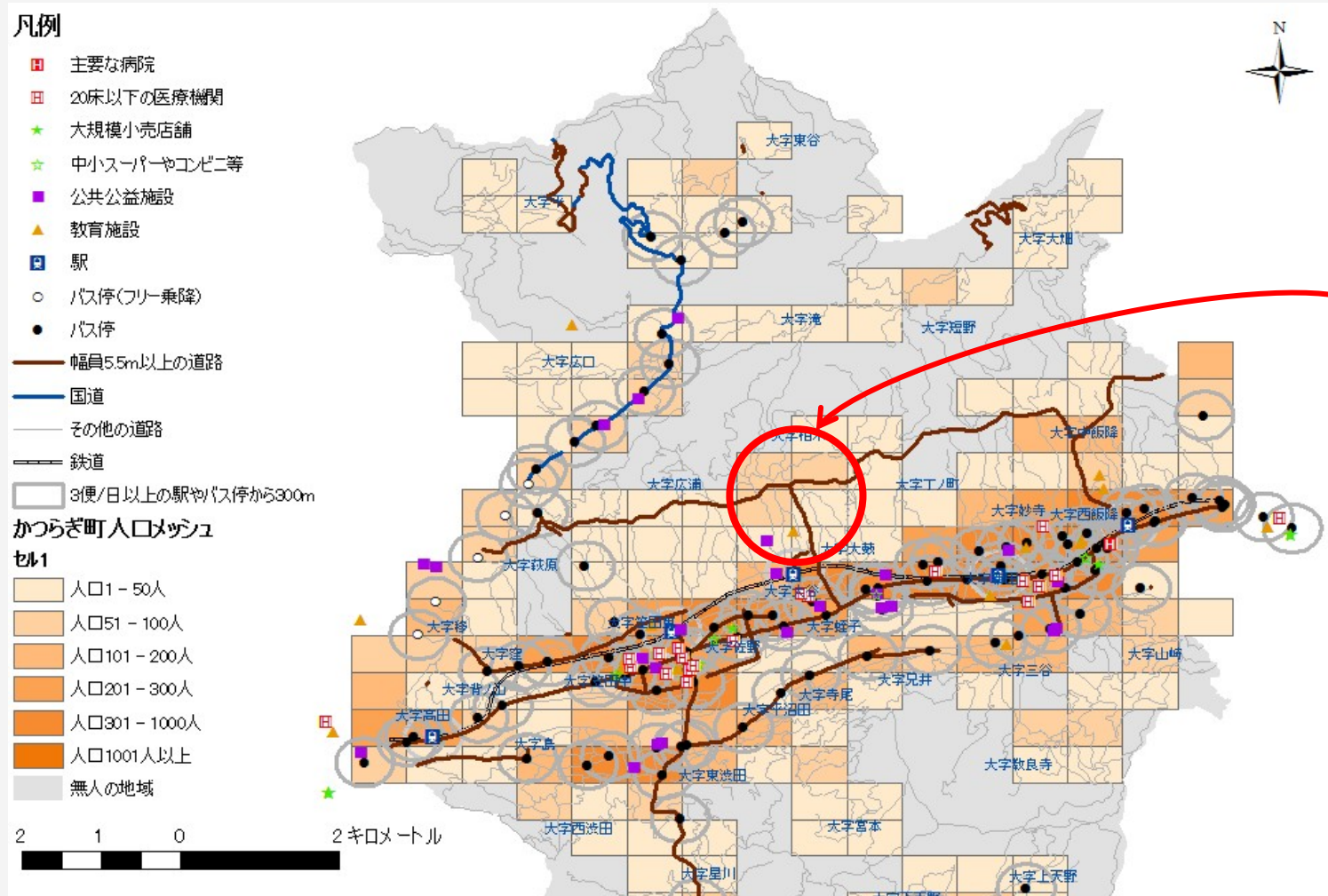
では、公共交通を残すためにはどうすればいい？

まずは少しずつでも、「乗って支える」ことが大切



《さらに、観光交通の取り込みも・・・》

3. コミュニティバスの隙間を埋める施策



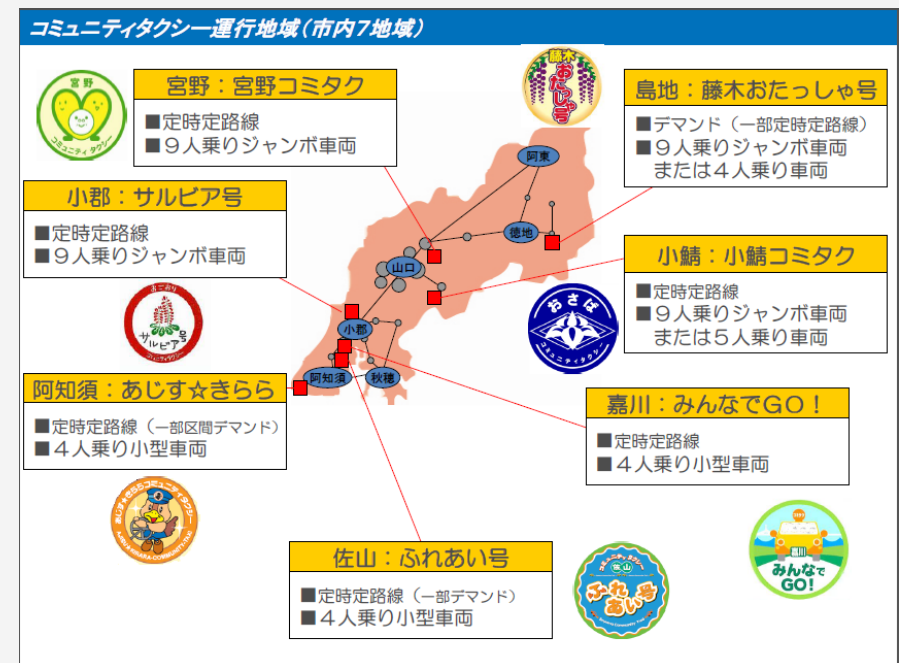
人口がある程度まとまっても、コミュニティバスがなく、スクールバスによる混乗もない、公共交通地域の空白地域が存在する

「かつらぎ町地域公共交通の調査研究報告書」より

3. 解決策の提案（その1）

コミュニティタクシー事業

- 住民主体の運用
- タクシー会社が運行を受託



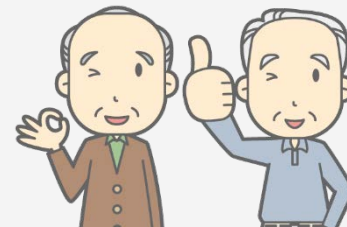
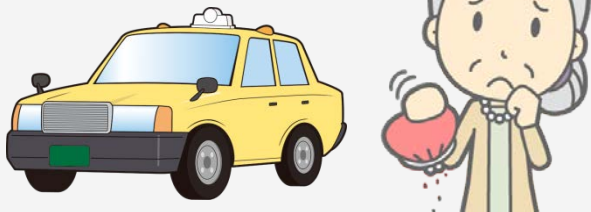
山口市の事例より

3. 解決策の提案（その2）

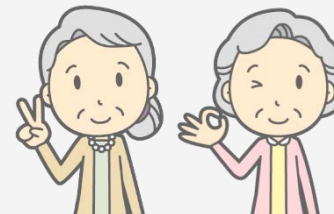
グループタクシー事業

- デマンドのように高価な初期投資は不要
- 高齢者グループの申請により利用券を交付
- 乗り合わせればお得になる仕組み

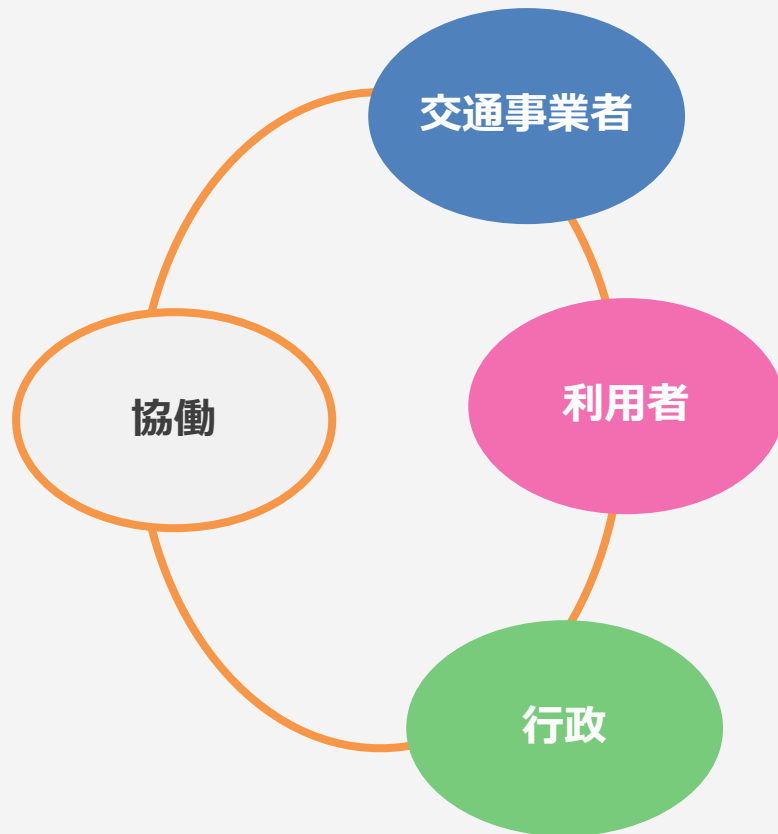
1人だと
2,000円-500円で
1,500円の負担



4人だと
2,000円-(500円×4人)で
負担はなんとゼロ！



3. それぞれの役割



運行する / サービスを見直す / 現状を伝える

- ◇安全、快適に運行する
- ◇利用ニーズを把握しサービス向上に努める
- ◇運行状況、運営状況を分かりやすく伝える

現状を知る / 利用する / 協力する

- ◇バスや電車の運行形態、利用方法を知る
- ◇バスや電車がどのように運行しているか知る
- ◇バスや電車を利用する
- ◇団体旅行、研修、高速バスなどに路線バス事業者を利用する
- ◇利用しなくても支援・協力する（広告や協賛金、回数券購入、清掃活動など）

現状を伝える / 利用促進に努める / 利用する / 支援する

- ◇運行状況、運営状況を分かりやすく伝える
- ◇公的投資などによる運行支援（運行経費、車両・停留所関係等設備）
- ◇利用環境整備を直接、間接的に行う（道路整備、駐車場、バス停関連施設など）
- ◇職員が率先して利用する

4. まとめ

事業者・行政・住民の協働で公共交通を守る！

1 既存施策の活性化

ノーマーカーデー
推進

乗車券配布



講座・勉強会

観光利用

利用者数を**3年**で
1.5倍程度に引き上げ！

2 新規施策の検討

コミュニティ
タクシー

グループ
タクシー



過疎地
有償運送

公共空白地域を**3年**で**ゼロ**に！

➡「住んでみてここがイチバンかつらぎ町」の実現へ